
第 2 回エコ大学ランキング結果 (速報版)

2010 年 11 月 4 日

エコ・リーグ(全国青年環境連盟)

Campus Climate Challenge 実行委員会

第 2 回エコ大学ランキング(2010 年実施)

■ 目的

国内の様々な大学が、持続可能なキャンパスづくりに向けて、多様な取り組みを始めていますが、いまだ CO₂ 排出量の大幅な削減には至っていません。その中で、学生もその取り組みに参加、協力したいと思っています。そこで、Campus Climate Challenge 実行委員会は、エコ大学ランキングを通して、

- (1) 学生と教職員による温室効果ガスの削減と持続可能なキャンパス作りの促進
- (2) その成果の社会へ発信

の 2 つを達成しようと考えています。

そのために、エコ大学ランキングで各大学の気候変動対策の現状を把握し、情報発信と共有、ネットワークの形成、調査結果のフィードバックを行ないます。

■ Campus Climate Challenge 実行委員会とは？

私たち Campus Climate Challenge (CCC) 実行委員会は、エコ・リーグ(全国青年環境連盟)を中心として、大学の環境改善活動に関心のある大学の環境サークル・環境ゼミ等のグループをメンバーとする組織です。現在、約 20 大学にメンバーがおります。

私たちは、学生の過ごす大学(キャンパス)を「**大きな実験室**」と捉え、社会に率先して、新しい活動、新しい技術、新しいシステムを導入し、温暖化防止を促進することを目指しています。

日本の大学の持続可能なキャンパスづくりを促進するために、多様な取り組みを行っています。

- (1) 大学の情報共有などを目的とした「エコ大学ランキング」
- (2) 学生のキャンパスづくりへの参加を促す、学生の目線を取り入れた「エコキャンパスツアー」
などです。

Campus Climate Challenge 実行委員会および第2回エコ大学ランキングは以下の団体に助成、協賛をいただいています。

助成:平成 22 年度地球環境基金

協賛:LRQA ジャパン

協力:私立大学環境保全協議会

■ 調査概要

調査対象: 国立大学 83 校 公立大学 77 校 私立大学 584 校 合計 744 校

実施時期: 2010 年 6 月～7 月

調査手法: 各大学の環境対策担当者にアンケート調査票を郵送する自記式アンケート調査

返答数、有効回答数:

| | 送付数 | 返答数 | 有効回答数 | 有効回答率 |
|---------|-------|-------|-------|-------|
| 全 体 | 744 校 | 162 校 | 151 校 | 20.3% |
| 国 立 大 学 | 83 校 | 43 校 | 41 校 | 49.4% |
| 公 立 大 学 | 77 校 | 34 校 | 34 校 | 44.2% |
| 私 立 大 学 | 584 校 | 85 校 | 76 校 | 13.0% |

ただし、複数のキャンパスがある大学で、キャンパスごとに回答した大学は別々にカウントしている。

調査内容: 「CO₂ 排出量・エネルギー使用量・廃棄物」「実施している温暖化対策」「学生への教育」「学生との活動連携・協働」の大きく4つの視点で調査を行った
点数配分を項目ごとに設定し、採点を実施

配点: 1000 点満点

| | |
|------------------------------|-------|
| CO ₂ 排出量・エネルギー使用量 | 485 点 |
| 廃棄物 | 30 点 |
| 実施している温暖化対策 | 280 点 |
| 学生への教育 | 105 点 |
| 学生との連携・協働 | 50 点 |
| 大学独自の取り組み | 50 点 |

昨年との変更点:

- ・昨年の第1回エコ大学ランキングの結果から、学生と一緒に活動をしている大学のほうが対策が進んでおり、効果が出ていることから「学生との活動連携・協働」の視点を追加した。
- ・実施している温暖化対策の項目を細分化するなど、各項目について質問項目を増やし、より詳細な内容を尋ねた。
- ・最終的に CCC 実行委員会では、全エネルギーを再生可能エネルギーで賄うことを目標にしているため、CO₂削減率と再生可能エネルギー比率に重点配点した。

■ 結果概要

1. ランキング(1000点満点)

国公立大学部門

| | | |
|-----|------------|------|
| 第1位 | 三重大学(三重県) | 552点 |
| 第2位 | 岩手大学(岩手県) | 549点 |
| 第3位 | 筑波大学(茨城県) | 483点 |
| 第4位 | 名古屋大学(愛知県) | 468点 |
| 第5位 | 琉球大学(沖縄県) | 460点 |

私立大学部門

| | | |
|-----|----------------------|------|
| 第1位 | 日本工業大学(埼玉県) | 471点 |
| 第2位 | 郡山女子大学、同短期大学部(福島県) | 462点 |
| 第3位 | 東京都市大学(横浜キャンパス、神奈川県) | 460点 |
| 第4位 | 千葉商科大学(千葉県) | 445点 |
| 第5位 | 成蹊大学(東京都) | 439点 |

小規模大学部門(学生数~5,000人)

| | | |
|-----|-------------|------|
| 第1位 | 日本工業大学(埼玉県) | 471点 |
|-----|-------------|------|

中規模大学部門(学生数5,000人~10,000人)

| | | |
|-----|-----------|------|
| 第1位 | 三重大学(三重県) | 552点 |
|-----|-----------|------|

大規模大学部門(学生数10,000人~)

| | | |
|-----|-----------|------|
| 第1位 | 筑波大学(茨城県) | 483点 |
|-----|-----------|------|

CO₂削減率部門

| | | |
|-----|--------|------------|
| 第1位 | 神田外語大学 | 削減率 -20.6% |
|-----|--------|------------|

※原単位の年変化を考慮せず、エネルギー使用量の変化から算出

温暖化対策実施部門

| | | |
|-----|------|--------------|
| 第1位 | 岩手大学 | 259点(280点満点) |
|-----|------|--------------|

自然エネルギー導入率部門

| | | | |
|-----|---------------|------|------------|
| 第1位 | 郡山女子大学、同短期大学部 | 2.3% | 28,344kWh |
| 第2位 | 日本工業大学 | 2.2% | 198,280kWh |

平均点:279点 標準偏差:99点

2. 回答大学の内訳

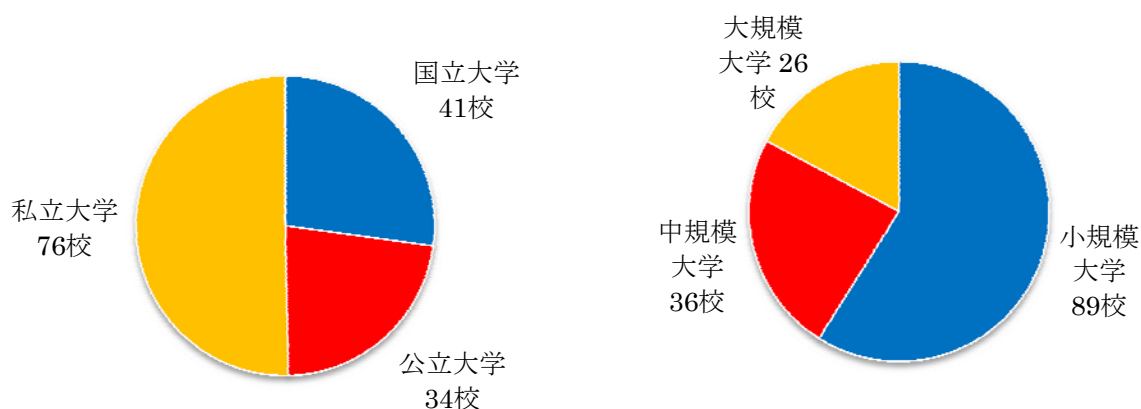
| | 小規模大学 | 中規模大学 | 大規模大学 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|------|
| 国立大学 | 12校 | 18校 | 11校 | 41校 |
| 公立大学 | 32校 | 2校 | 0校 | 34校 |
| 私立大学 | 45校 | 16校 | 15校 | 76校 |
| 合計 | 89校 | 34校 | 26校 | 151校 |

ただし、複数のキャンパスがある大学で、キャンパスごとに回答した大学は別々にカウントしている。
調査表に記載された学生数で大学規模を区分した(* 文科省による類型化とは異なる)

小規模大学: 学生数~5,000人

中規模大学: 学生数 5,001人~10,000人

大規模大学: 学生数 10,001人~



調査対象となった大学・キャンパスの学生数の合計は約 91 万人であり、全国の大学生 285 万人(平成 21 年度)¹の約 3 分の 1 を占める

¹学校基本調査: http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/chousa01/kihon/kekka/k_detail/1288104.htm

3. CO₂ 排出・エネルギー使用量

電力やガス等のエネルギー使用量の他、自然エネルギーの利用や CO₂ 排出量の削減目標等を尋ねた。

(1)CO₂ 排出量

回答のあった大学の1年間のCO₂排出量の合計は約180万トンであった。これは、日本の2008年度のCO₂排出量12億トンの0.15%を占めていることになる。

また、一部の理系大学、大規模校を除くとCO₂排出量と学生数はほぼ比例して増加する傾向にある。

(2)CO₂ 削減目標

半数弱の67大学でCO₂削減目標が設定されており、その多くが年率1%であった。

しかし、東京都内の大学は、東京都環境確保条例のため、他の道府県より高い目標設定がなされている。

また実際に、岩手県立大学では、平成14年度から平成21年度で原油換算で20%の削減を達成している。

長期的な目標設定としては、2021年度までに25%削減(2008年度比)とする九州大学、2030年度に実験系を除き50%削減(2006年度比)とする東京大学などがあった。

(3)改正東京都環境確保条例への対応

東京都では環境確保条例が施行され、規模の大きな大学では、2010年度から2014年度にかけて温室効果ガスを8%削減しなければならない。

この達成の見込みについて、ほとんどの大学は省エネや設備更新等による自主努力によって削減すると回答したが、排出量取引を検討するとした大学も若干あった。

(4)自然エネルギー

自然エネルギーを利用している大学は全体の約半数の77大学であり、多くの大学が太陽光発電であり、一部に風力発電がみられた。

国公立大学では実施率が64%(48校)と高いのに対し、私立大学は38%(29校)と低く、「資金の確保が難しい」と回答した大学が多く、資金面が課題となっていることがうかがえる。

啓発や実験目的のため、発電量が不明であったり、わずかな発電量の大学が大部分である中で、日本工業大学は約20万kWhと電力使用量の2.2%(2009年度)を太陽光発電により賄っている。また発電量自体は約2.8万kWhと小さいが、郡山女子大学も電力使用量の2%以上を太陽光発電により賄っている。

(5)グリーン電力証書

8大学が導入しているが、イベント実施に伴うエネルギーをグリーン電力で賄うなど小規模なものがほとんどである。

4. 実施している地球温暖化対策

施設設備のハード面や運用改善などのソフト面で、どのような地球温暖化対策を実施しているか尋ねた。

(1)施設・設備(ハード面)

施設新設、改修更新時に高効率熱源装置、高効率照明器具を導入している大学は 6 割と多かった。壁面緑化を一部実施している大学は 3 割であった。屋上緑化を実施している大学は、小規模大学で 3 割強なのに対し、大規模大学では 8 割以上が導入するなど、大学規模によって実施率に差がみられた。

(2)運用・啓発(ソフト面)

ポスターの掲示での照明・空調の節電の促進(5 割以上)や教職員へのクールビズ・ウォームビズの実施(8 割以上)、昼休みの空調の電源オフ(5 割)は実施率が高かった。

一方で、教職員や学生のパトロールによる節電呼び掛けや消灯は啓発や実質的な効果が高いが、全面的に実施しているのは 2 割にすぎない。また、エネルギー使用量を学生や教職員に公開「見える化」している大学は、半数が実施していない。

(3)EMS(環境マネジメントシステム)

環境マネジメントシステムでは、ISO14001 を取得している大学が 20 大学、エコアクション 21 を実施している大学が 6 大学、その他、独自のシステムを運用している大学が 21 大学と、全体の約 3 分の 1 がなんらかの環境マネジメントシステムを導入し、継続的に環境改善を図っていた。

(4)環境報告書

環境報告書を作成している大学は 55 大学あったが、国立大学が 8 割の大学が作成しているのに対し、私立大学は 25%の大学しか作成していない。

5. 学生への教育

(1)環境に関連した分野での学生への支援

環境活動を行う団体への助成金(35 校)、インターンシップの推進(24 校)、公開シンポジウムの開催(30 校)は 2 割程度の大学が実施していたが、留学の支援を行っている大学は 3 校だけであった。

(2)学生への環境意識啓発

半数以上の 79 校が、ポスターによる呼び掛けを行っており、学内広報による呼び掛け(58 校)、入学オリエンテーション時の啓発(52 校)、啓発イベントの実施(51 校)も 3 分の 1 が実施していた。一方で、環境に関する授業を必修単位としている大学は、13%(20 校)と少なかった。

6. 学生との連携・協働

環境への取り組みについて学生との意見交換の場がある大学は、67 大学あり、国立大学は 65%(27 校)、私立大学は 43%(33 校)と国立大学で多かった。

また、環境活動を行っている学生団体と連携している大学は、3分の1の53校あり、教職員と学生が一緒になってリサイクル活動を行ったり、環境報告書や学内広報を学生と連携して作成するなどしているほか、授業等を受講した学生や学生環境委員会等の学生が、内部環境監査員として、大学の環境監査を行っている大学もあった。

お問い合わせ先:

エコ・リーグ(全国青年環境連盟)内

Campus Climate Challenge 実行委員会

担当: 武部・福島

E-mail: ccc@eco-2000.net

WEB: <http://ccc.eco-2000.net/>

TEL: 03-5225-7206 FAX: 03-5225-7206